

天塩町地域おこし協力隊 2019年10月～12月活動報告 地域プロデューサー 久保 綾香

10月～12月は大きく分けて以下の4つの活動を行った。

1. ダンス指導
2. イベント等の実施・実施支援
3. 国際交流の機会の創出
4. イベント・セミナー・研修等を通じた情報収集
5. その他

各項目の具体的な内容については以下の通り。

1. ダンス指導

10月から12月にかけて、毎月1回実施しているヒップホップダンス教室や、天塩町のストリートダンスサークル、天塩高校の授業などでダンス指導を行った。

(1) ヒップホップダンス教室の実施

実施したダンス教室は以下の通り。

- キッズクラス (10/31, 11/7)
- 入門クラス (10/31, 11/7)

11月実施分については、毎年天塩町でダンス教室を開催されている北海道日本ハムファイターズの田村優佳氏を特別講師としてお招きし、ダンス教室内のイベントとして特別ワークショップを開催した。ワークショップでは、ヒップホップの基本の動作などを学びつつ、ヒップホップの振り付けや、ファイターズの試合で踊る振付などを踊った。



11月7日実施のワークショップ



11月7日実施のワークショップの参加者

(2) ストリートダンスサークルでの指導（協力隊の業務外での活動）

ダンスサークルの運営方法を変更し、11月より新体制で行っていくこととなった。新体制では「初級」と「中級」の2種類のクラスを設け、より高いレベルでダンスを踊れるように

なること、イベントに積極的に出演することを目指すクラスとした。毎月行っている月1回開催の無料のダンス教室とは区別し、無料のクラスについては、初めてダンスに挑戦する人向けの基礎のクラスとし、サークルのレッスンに参加する前の準備クラス、イベント出演に重きを置かないクラスと位置付けた。サークルでのレッスンについては、毎月のレッスン回数を2回とし、定期的にレッスンを行っていくこととした。



ダンスサークル初級クラス



ダンスサークル中級クラス

(3) 他地域のダンススクールとの交流、出演など

ダンス指導の取り組みを通じて、羽幌町のダンススクール「LUSH☆DANCE SCHOOL」（以下、LUSH）と交流を持つようになった。LUSHの代表と講師を務める澁谷紗由美氏は、地元羽幌町の出身で、現在「ダンスでまちおこし」を目指し羽幌町の子供たちにダンス指導を行っている。10～12月の間で、LUSHと以下の交流を行った。

- LUSHダンス教室 in 天塩町の開催（10/19）
- KING DANCE MATSURI 9におけるLUSHチームのショーケースへの参加出演
- LUSHダンス発表会への参加出演

ダンスの楽しさを広めることを目的に、LUSHが10月に留萌管内の町村で移動ダンス教室を開催することとなったため、天塩町でも同ダンス教室を開催することとなった。普段中々町外のダンス愛好者と交流をする機会がなかったため、天塩の生徒たちにとって良い刺激になったのではないかと考える。こうした交流を通じて、他者の良いところを認め合うこと、皆んなで一つのことに向かって努力すること、同じ気持ちを持った人同士が充実した時間を共有し合えることの楽しさなどを感じてもらいたいと考えている。



LUSH ダンス教室でのレッスン（幼児クラス）



LUSH ダンス教室でのレッスン（入門クラス）



LUSH ダンス教室でのレッスン
（経験者向けクラス）



レッスンを担当してくれた LUSH の皆さん

11 月には、LUSH が出演予定だった Zepp Sapporo でのダンスイベント「KING DANCE MATSURI9」（道内最大級のダンスイベント）に、天塩町のダンスサークルの生徒も出演させて頂くことになった。澁谷氏の振付・指導のもと、天塩町の生徒が LUSH のメンバーの中に入り練習を重ね、札幌の大きなステージでダンス出演をすることができた。羽幌町での合同練習以外の練習の際は、久保が事前にもらった振付の動画を基に生徒に指導を行った。天塩町のイベントへの出演も少ない中で、レベルの高いダンスグループの中に入って練習をするのは体力的・精神的に厳しい部分もあったと想定されるが、LUSH のメンバーの皆さんが快く天塩のメンバーを受け入れてくれ、また参加した生徒たち本人が最後まで諦めずに練習に励んだことで、今回のイベント出演を無事に終えられたのだと改めて感じている。今回の経験は、生徒たちにとって大変かけがえのない経験になったのではないかと考える。久保自身、違うダンススクールの指導の様子を見たり、作品の制作過程を見ることができたのは、今後指導を行っていくうえでの学びになった。LUSH の澁谷氏の心遣いに感謝するとともに、引き続き LUSH をはじめとした町外のダンス関係者と交流を続けていければと思っている。



天塩チーム 3 名を含む LUSH 出演者



ステージでの発表 (1)



ステージでの発表 (2)



LUSH 代表の澁谷紗由美さん (右)

さらに 12 月には LUSH 主催のダンス発表会 (羽幌町で開催) にも出演させて頂いた。LUSH は毎年ダンス発表会を開催しており、LUSH のメンバー以外にも、町内・外のその他ダンスチームやダンススクールを招いて発表会を行っている。こうしたイベントに積極的に足を運ぶことで、生徒たちが町外の人々と交流し互いに学び合う機会になればと考えている。こうしたイベントが開催される際に、澁谷氏にはいつも声をかけて頂いており、大変感謝している。自分自身も指導者として、積極的に町内外の人々と繋がる機会をつくるよう努めていきたいと考えている。



LUSH ダンス発表会のステージ



天塩町ダンスサークルメンバーの出演 (1)



天塩町ダンスサークルメンバーの出演 (2)



天塩町ダンスサークルメンバーの出演 (3)



天塩町ダンスサークル (選抜) メンバー



LUSH ダンス発表会の全参加者

(4) 天塩高校での授業におけるダンス指導

天塩高校の体育の授業において、ヒップホップ・創作ダンスの授業を3回分担当した。今回の授業では、ヒップホップダンスの基礎を教えつつ、ロックなどヒップホップ以外の分野のダンスにも挑戦した。

2. イベント等の実施・実施支援

天塩町内外で実施された以下のイベントの実施・実施支援を行った。

- 「北海道くらしセミナー ～夕陽のまち・オロロンライン～」での発表・個別相談の対応@東京 (12/14) 【実施支援】

毎年東京のふるさと回帰支援センターで開催されている、留萌地域の移住促進セミナーに参加し、協力隊として天塩町での生活についてパネルディスカッションを通じた発表を行った。実際に天塩町で生活してみて感じたことや協力隊としての業務の内容などについて説明し、個別相談では数名の方に相談窓口にお越し頂いた。



北海道くらしセミナーでの協力隊の発表



北海道くらしセミナーでの役場職員の発表

3. 国際交流の機会の創出

- パーススタディツアー@パース（オーストラリア）（10/20-25）

2018年の7月に、オーストラリアのマードック大学（Murdoch University）の学生が観光学の研修のため天塩町を来訪し、町民宅でホームステイをしながら様々なアクティビティを体験した（札幌の北星学園大学の学生も通訳ボランティアとして同研修に参加した）。その後も同大学との交流が継続され、2020年度も同大学生らの研修の受け入れを予定している。天塩町での研修とその際の受け入れ態勢をより良いものにするために、オーストラリアの人々の文化や生活習慣、また観光施策やまちづくりの取り組みなどについて学ぶスタディーツアーを企画・開催した。久保はツアー内容の企画や現地関係者との調整、渡航時や滞在中の通訳等の支援を行った。

現地では、ベジタリアン向けのメニューを提供するカフェやスーパーマーケットの視察、公共スペースや、まちが観光客向けに行っている取り組みなどの視察を行った。また現地の一般家庭の人々の生活を理解するため、マードック大学の学生宅でホームステイを行った。さらに、マードック大学を訪問し、2020年度の観光学研修に関する説明会と併せて天塩町民と学生との交流会も開催した。ホームステイ最終日には、日本の家庭の味を知ってもらおうと、ツアーに参加した町民が地元スーパーで購入した食材を使って日本食を提供した。その他、ワインツーリズムやガストロノミーツーリズムに力を入れているパース近隣の地域を訪問し、地方での観光施策を視察した。これらの活動を通じて、オーストラリアの人々の生活や文化、慣習などを学びつつ、天塩町への訪問を検討している学生らと現地で交流の機会を持ち、彼らの天塩町に対する理解を促し、天塩町での観光学研修への関心を高めてもらえたのではないかと考える。

今回のパーススタディツアーでは、2018年度の観光学研修に同行頂いたマードック大学観光学講師の岡本洋平氏や、観光学プログラム上級講師の Diane Lee 氏、日本語講師の Leonie Stickland 氏など、多くのマードック大学の関係者の方々にお世話になった。街の散策やマードック大学での交流会、学内散策の際などに同行頂き、説明や解説などをして頂いた。ホームステイ先の Watson 家のご家族にも大変暖かく迎え入れて頂き、現地での活動において色々ご協力頂いた。また、2018年度の観光学研修に同行頂いた北星学園大学の英文学科教授の森越京子氏には、日本出発前に直接ご挨拶をされに空港までお越し頂いた。今回のツ

アーにおいてお世話になった関係者の皆様に感謝申し上げたい。

本スタディーツアーの詳しい内容については、別途作成した報告書に内容をまとめている。具体的なツアーの内容や学びについては、同報告書を参照頂きたい（天塩町役場で久保宛てに個別で問い合わせ頂きたい）。



パース市街地近郊にあるキングスパークにて



ステイ先のホストファミリーとツアー参加者

4. イベント・セミナー・研修等を通じた情報収集

参加したイベントやセミナー、研修等は以下の通り。

- 狂犬ツアー「北海道再興戦略～少人口でも持続する稼ぐまちの作り方～」@旭川 JA 上川ビル (11/9)
- 北海道インバウンドフォーラム@北洋銀行セミナーホール (11/22)
- かわまちづくり協議会主催 SNS 活用ワークショップ@天塩町役場 1F 会議室 (10/29, 12/16)
- おもてなし中国語セミナー@てしお温泉夕映 2F コワーキングスペース (12/26)

狂犬ツアー「北海道再興戦略～少人口でも持続する稼ぐまちの作り方～」は、一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事を務める木下斉氏が自主開催している、地域で民間によるまちづくり事業を仕掛ける人向けの勉強会である。「少人口であっても持続的に稼ぐまちづくり」をテーマに、戦後の北海道のまちづくり政策の歴史や、海外の事例などを取りあげ解説しながら、北海道を次の時代に再評価できる状態にするために必要な要素とは何か、今できることは何かを検討した。

木下氏のセミナーでの内容をうけ、まちづくりを考えるうえで、日本だけでなく海外の事例に目を向けることの重要性や、目の前のことだけでなくシステムという大きな枠を見直す視点が必要であること、インバウンド対応を考えるうえでまずは自分自身が現場に実際に足を運ぶことの重要性などを学んだ。木下氏は、今後の北海道の発展を目指すうえで、まちを1つの会社と見立てて経営することの重要性、また「稼ぐ北海道」へ転換するための方法として、「安くたくさん」から脱却し、付加価値を高め歴史や文化を構築していくことの必要性を説いた。

かわまちづくり協議会主催の SNS 活用ワークショップでは、LINE や Facebook などの SNS を通じた町の魅力発信の取り組みを行っている。久保は、移住促進や町の魅力向上に向けた、協力隊によって運営されるウェブページの制作を担当している。



狂犬ツアーでの木下氏による講話



SNS活用ワークショップ

5. その他

- いい川・いい川づくりワークショップへの出場@滋賀（10/5・6）
- 宇野牧場の海外販路拡大に向けた商談への同行@シンガポール（10/14-18）（協力隊の業務外での活動）
- 野鳥調査（天塩川を清流にする会）に参加@天塩町内（11/4）
- 農林水産省主催「残したい北海道の食動画コンテスト」への応募に向けた動画の制作
- 「北海道移住への架け橋」の SNS ページでの情報発信（協力隊の業務外での活動）
- 天塩川フォーラムのノベルティプレゼントのデザイン・製作

第12回いい川・いい川づくりワークショップ in 滋賀・京都に、てしおかわまちづくり協議会チームとして出場し、発表を行った。「てしお川・インス「夕」映えフォトコン」や「天塩川フェノロジーカレンダー」の取り組みについて紹介したところ、地域の魅力を地域の人自身が発見する取り組みであり、また外の地域の人と繋がろうとする姿勢が良いと評価された。本ワークショップに参加したチームの多くは川そのものの質を高めることを目指すような、どちらかというとハード面での活動が多い中で、かわまちチームのようなソフト面での取り組みを行う団体は珍しい事例であった。他のチームはハード面の活動に力を入れている一方、地域の人々をどのようにして活動に巻き込むべきかを模索しているチームが多く、かわまちチームの取り組みは学びになったと声をかけてくれるチームが多数あった。入賞はできなかったものの、参加者同士で互いに学び会えた良い機会であったと感じた。

農林水産省北海道農政事務所主催の動画コンテスト「受け継ぎたい北海道の食」に応募するため、天塩町の方の自宅にて飯寿司づくりの様子を撮影させてもらうこととなった。飯寿司をはじめとした北海道の伝統的な郷土料理は、昨今では若い世代にとっては馴染みのないものになってきている。そうした

1月下旬に開催される天塩川フォーラムのノベルティプレゼントとして、天塩川流域に生息

する野鳥のポストカードと、天塩川産粘土を使った陶芸作品を参加者に配布することとなった。野鳥のポストカードのデザインを担当し、また陶芸作品の製作の支援を行った。引き続き町の関係者の方々と製作を進めていく。



いい川・いい川づくり WS での全体発表



いい川・いい川づくり WS での復活選考



飯寿司づくりの様子を動画で撮影



完成した飯寿司



デザインした野鳥ポストカード



製作途中の天塩川産粘土を使った陶芸作品

以上